

矢島 渚男 選

団栗や理科も俳句も好きになり

姫路市 難波 佳代

【評】団栗と遊んだことから理科も俳句も好きになったと言われる。偶然ながら面白いですね。人生は偶然の積み重なりかも知れません。その偶然をどう生かすか。

日に輝き月に輝き湖の鴨

八幡市 会田重太郎

【評】日月とあって類型感はあるが、時間と空間がしっかりと切りとられた。

ちぎりのなきこひのゆくすゑ夕紅葉

向日市 福岡 猛

【評】短歌が俳句のルーツですが、私などは万葉集のせいで俳句に「恋」をし、その行末がどうなるか心配しています。一旦は古典へ帰るべきか。おしゃれな句ですね。

親子孫絆噛みしめ稲を刈る

奈良県 松井 秀仁

北斎も食べただろう小布施栗

川崎市 小沢寿美子

山深き川の野天湯紅葉冷え

神戸市 浜野まさる

走り蕎麦信濃の人と相席に

神奈川県 中村 昌男

秋風の遊び相手や風車

東京都 関根ともみ

湯殿山月山羽黒山秋高し

行田市 小河原一路

我はもう鶴鶴のごと走れざる

町田市 枝沢 聖文

高野ムツ才 選

捕まりて檻の錆噛む月の輪熊

川崎市 大野有之介

【評】熊捕獲用の箱罠が普及しつつある。里に出てくる熊は縄張を追いつた雌熊と子熊がほとんど。捕獲後が殺処分となる。「錆噛む」に熊の悲鳴が聞こえる。「月の輪熊」と言い切ったのも良い。

寂しげな子熊の瞳雪催

幸手市 大森 邦雄

【評】親とはぐれた子熊だろう。もう雪の季節だが冬眠もままならない。熊の出没は生態系が異常をきたしているとの警鐘であらう。

コスモスは恋人達の邪魔をせず

新潟市 大竹 健一

【評】二人寄り添うそばで揺れるコスモス。コスモスもコスモスなりに恋を語っている。

芯で立つ己のちから木の実独楽

横浜市 鈴木 基之

雨に染む木犀の香や同期会

東京都 青木 公正

鷹の輪の上のまた上秋の雲

日立市 菊池 三夫

廃校の跡形もなく石路の花

泉佐野市 向井克之介

畦ゆきて詩人とならん秋の風

小山市 松本 喜雄

始発駅手袋外しませずスママホ

我孫子市 安倍 芳彦

溪流を血管として秋の山

雲南市 熱田 俊月

正木ゆう子 選

へアコムを手首に秋を惜しみけり

狭山市 小俣 友里

【評】髪を結ぶとき、一日の途中で結び直すとき、解くとき、なんとなく窓の外に目をやりながら、秋も終わりだと思ふ。家事や仕事の合間の、ふとした空白の時間である。

郁子の実や郁子てふ名の子のありて

横浜市 栃木 安穂

【評】名前の郁子と郁子の実とは同じ表記。不老長寿の実に因み、鬱鬱の郁である郁子さん。読みは様々だが、この方は「ゆうこ」だろう。

百連の掛大根の暗みかな

越谷市 小林ゆきお

【評】大根を映像では見るが、暗くなる程とは、現地へ行つてこそ実感か。「百連」からは、量のみならず、綺麗に並んだ様が浮かぶ。

折れ釘を捨てぬ暮らしや冬仕度

登別市 寺島さしを

水掻きや虫や翅やら鴈の糞

武蔵野市 相坂 康

桐の実の鳴れよ傘寿の誕生日

神栖市 桐本 博昭

縄文の遺跡にも河豚中毒死

津市 中山 道春

豪快にしんにゃくちぎる芋煮鍋

山形市 栗原たかし

我も又大地に還る枯葉かな

東京都 石田 絹子

平坦な道に蹟く師走かな

八王子市 徳永 松雄

小澤 實 選

かあちゃんが取つて代はつて海蔵を打つ

川崎市 益子さとし

【評】海蔵で作った独楽を廻し合つて、相手の独楽を弾き倒した方を勝ちとする遊び。息子の不甲斐ない戦いぶりにかあちゃんが登場している。相手を圧倒したことだろう。

笛鳴の日向を連れて来たりけり

川崎市 沼田 広美

【評】鶯は冬を越す際に人里近くを下りてくる。この時、人間が舌打ちをするような鳴き方をするのが笛鳴。それが聞こえた後、晴れ渡った。新蕎麦のぶつ切れて香はしき

新蕎麦のぶつ切れて香はしき

新座市 田中 美登

【評】ぶつ切れるというこは、つなぎの小麦粉の割合が低いということになる。蕎麦の純度の高さの証明でもある。さぞ香っている。

時雨忌や佐渡は荒ぶる波の上

霧島市 内村としお

里芋の肌のあらはに御御御付

さいたま市 関根 道豊

暗がり座敷童や暮の秋

京都市 吉田 基子

杖にても届かぬ高さ蜘蛛の糸

鎌倉市 中江 優子

蚯蚓鳴く電話ボックス撤去跡

栃木県 あらみひとし

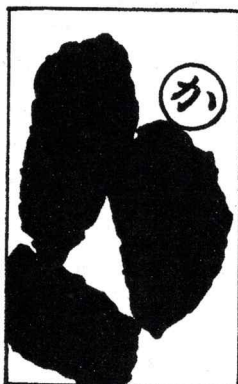
秋刀魚焼く今日もだいたい幸せだ

土浦市 今泉 準一

バスの影おほひ被さる靱筥

東京都 望月 清彦

短歌あれこれ くどうれいん (歌人) ひかりを食べる



ありがたことに、わたしの暮らしている盛岡には毎月のように友人や編集者が訪ねて来てくれる。どれだけ忙しくても仕事の予定を何とか調整し、車を出してさきま連れ歩くと、何度でも旅人のまなざしで自分の街を回ることが出来る。これがうれしい。信じられないことに、盛岡を歩いているとわたしの「聖地巡り」をしに来たという読者と遭遇して驚くこともある。

みな盛岡には食べたいものがありすぎて胃袋ひとつでは足りないと言ふ。盛岡冷麺、じゃじゃ麺、わんこそばの三大麺。わかめやウニといった三陸の海鮮に、短角牛や前沢牛。山菜にきのこと。岩泉ヨーグルト。福田パンに、行きたい喫茶店もいくつも！ 悩む相手に笑いながら「まずは何を食えますか」と訊ねると「れいんさんの『ひかり』を」と言ってくる。

噛めるひかり吸われるひかり飲むひかり祈りのように盛岡冷麺くどうれいん『水中で口笛』